

児童分野 / 事前配付資料

「演習事例」及び事前課題について

神奈川県児童発達支援管理責任者研修

研修では、本事例を活用し演習を行います。

事前に内容を熟読して、**事前課題1**「本人を知るための地図」に事例から読み取れる事項を記入してください。その上で**事前課題2**「ニーズの整理表」の「解決すべき課題」欄以外をすべて記入してください。

別紙の**事前課題3**に、自己紹介と貴事業所が重視していることをご記入ください。

児童分野 / 事前配付資料

「演習事例」及び事前課題について

神奈川県児童発達支援管理責任者研修

研修当日は、「個別支援計画」(事前作成は不要)を作成することを前提に、事例について熟読し、イメージをしておいて下さい。

本事例は、本研修会のために事務局で作成したものです。取り扱いにはご配慮ください。

研修当日は「事前課題1・2」を各10部、「事例情報(情報提供1 - 4)」「事前課題3」「記入様式3」は各1部ご持参ください。演習初日の朝に各グループにて「事前課題1・2」を1部必ず提出してください。

*** 事前課題の未実施や持参し忘れなどにより演習初日の朝の時点で提出できなかった場合には、研修の修了証をお出しすることはできません**ので、十分にご注意ください。

研修では横のつながりも大切にしておりますので、各自名刺や事業所のパンフレットをお持ちいただき、グループ内でのネットワークづくりを積極的に行ってください。1グループ10名(受講生9名・演習講師1名)ですので人数分ご用意ください。

相談受付とプロフィール

* (H26年4月の時点でのプロフィール 8歳時)

児童名	K・T	性別:男	生年月日:平成17年〇月		
診断名	自閉症スペクトラム				
医療情報	特記事項なし 身長:128.4cm 体重:26.8kg 頭囲:52cm 胸囲:64cm				
生育暦	妊娠時:正常分娩。在胎40週 体重3005g 普通分娩 定頸0:4 座位0:7 つかまり立ち0:10 始歩1:3 始語2歳半くらい				
家族構成	父、母、兄の4人家族。				
家族状況	<p>父/会社員 母/パート</p> <p>父親について:物静かな感じの方。当事業所には、1度来たきりで、以下は、母親からの情報。 転勤はあるが、県外になることはない。平日は、早い時でも22時過ぎの帰り。土、日曜日はほぼ休み。土日ともに、母親は仕事のことが多いこともあり、Kくんとお出かけしている様子。自分の実家には毎週のようにKくんで行っている。また、Kくんと電車を見に行くことも毎週続いている。家事はあまりしないとのこと。特に趣味はないそうである。家でゴロゴロしていることはなく、出かけることは好きな様子。</p> <p>母親について:パートで、朝は10時から大体17時まで。休みは不定期だが、土、日休みは希望しない限りない。明るく、活発で、子どもの学校の役員などもこなしている。Kくんが幼児期までは、いろいろな療育機関(県外も含め)を訪れ、必要なことは何でもやりたいという母親であったらしいが、就学を機に、仕事中心の生活へ。業務内容は、人相手の仕事でもあるので、やりがいがあり、楽しいとのこと。子どもの相手も少ない時間ながら、できるだけ接している様子。療育的なフォローについては、あまり関心がない感じは受ける。</p> <p>兄について:小学6年生。おっとりしたタイプ。成績は優秀な様子。中学から私立受験を考えており、塾通いの日々。Kくんとはそれほど遊ぶことはない。</p>				
利用状況	週5日、学校の放課後に当事業所れいんぼう(放課後等デイサービス)を利用。送迎は事業所の車を利用。(学校に迎えに行き、家まで送っている。)1年生から利用しており、この4月で3年目になる。日課としては、宿題タイム(但し、30分まで) 曜日ごとの余暇支援講座(製作・音楽活動が多い) 子どもごとに選択できる活動タイム(読書、パソコン、ルールのあるゲーム、近くの公園での遊びなど)【Kくんは、パソコンでの空間構成課題とパズルゲーム、または、公園遊びのどちらかを選択する。】 帰りの会				
他機関の利用や、連携について	<p>就学までは児童発達支援事業所A園を4年間利用。事業所からも詳細な申し送りがあった。今も、母親はA園の職員とのつながりがあり、不安なことなどあると相談しており、信頼関係は深い様子。</p> <p>1年生の頃は、移動支援と、放課後等デイサービス事業所B園の個別指導を受けていた。両親の仕事の都合もあり、小学1年生の2学期以降は、当事業所だけの利用となっている。</p> <p>ひかり相談支援事業所による支援利用計画は、この4月の受給者証の更新に伴い、初めて利用することになった。</p>				
家庭環境	3LDKのマンションをKくんが2歳の時に購入。Kくんの部屋はないが、両親の寝室が実質Kくんの部屋。リビングには、パソコンがあることもあり、主にはその部屋で過ごしている。電車関係の本はたくさんある。生活リズムにはとても気をつけているとのこと。Kくんが就学前に通っていた児童発達支援事業所A園のスタッフが何度も訪問し、Kくんが寝る部屋の電気の明るさや部屋の整理棚や、壁紙、空調までも一緒に考えてくれたとのこと。幼児期は夜中起きることが多く、大変だったが、年長の時に少し落ち着いてきて、半年前くらいから自分から早く寝るようになったとのこと。				

事例の説明

* 小学3年生 8歳、平成26年4月時点の状況を、演習では初回のアセスメントとします。

事例について	1歳半健診後に「健診後のフォロー教室」に参加。その後、地域の療育相談を勧められ療育機関の利用と、病院での受診についての話を受けた。すぐに療育を受けることになった。児童発達支援事業所A園に4年間通い、卒園後は、地元の小学校の特別支援学級に就学。当事業所は、一昨年の4月から利用。今年度で3年目。
支援体制について	当事業所送迎車を利用。事業所の利用者は、日々8～10名。契約者は38名。(小24名、中9名、高5名) 日々の直接支援スタッフは、3～4人。
事例における当事業所を利用するまでの状況	<p>A園に在籍していた年長の時の1月に当事業所を児童発達支援管理責任者と見学。市内、いくつかの事業所を見て回ったとのこと。母親の就労保障を応援してくれ、子どもはとても元気なので、男性スタッフが常について、活発に活動する支援内容があり、事業所のスペースとして広々したところをさがしているとのこと、当事業所が親の思いに一番近いと感じ、1年生の4月より利用することになった。</p> <p>A園には4年間通っているが、園の勧めにより、年長の時は交流保育を実施。私立の幼稚園へ週に1日通った様子。学校については、特別支援学校への入学しか考えていなかったが、幼稚園で生き生きと過ごす姿を見て、学区にある特別支援学級に通わせてみようと考えようになったとのこと。当事業所のことは、特別支援学級の保護者に紹介を受けた。</p> <p>母親とA園との信頼関係はとても良いようで、保護者グループの相談会があれば、今でも仕事を休んで参加しているとのこと。多動だったKくんが落ち着き、生活リズムが安定したのも、母親の就労を助けてくれたのもA園だという話である。</p>
平成26年度4月における母親からの要望等	<p>年に2回、保護者の方からのご要望等を確認しているが、今回は次のような話があった。</p> <p>* 家で宿題に付き合う時間が持てないことが多いので、事業所を利用中に宿題を終わらせることはできないか？(これまでも同様な要望はあった。)</p> <p>* ひかり相談支援事業所の方に、利用計画を書いてもらったが、子どものことを考え直す機会になった。夫や長男のことも考えてくれていることにも感心した。</p> <p>* できないことより、得意なことを見つけてあげようと考えようになった。1人でバスを乗り継いで、仕事に通うようになれるよと言われたことがあるが、そこまでは望んでいないものの、生活力がつくようなことをここでも教えてあげてほしい。</p>

事例の発達の状態

平成26年4月時点の状況

項目	状 態	項目	状 態
日常生活 の技能	偏食なく自分で箸を使って食べる。電子レンジを使って温めることもできる。卵割りが上手になった。着衣は、ボタンはめは小さくても可。ズボンのベルトは、装着から助けを求める。アイロンかけに誘うと、よく指示を聞いて取り組む。排泄については大の後のふき取りについては、練習を要す。起床6:30～7:00、床に就くのは、ほぼ21:00。「9になったよ。」と言われるのを待ち、さっさと寝床に行く。本人なりに時計は見ている。		
健康 体調	学校、事業所共にまず休むことはない。小学校1年生時に、突然走り出したりするようになり、外出時の危険を考慮して、服薬を開始したが、行動に変化がなかったため、約2ヶ月で中止。ヘルパー利用とB園の利用をやめたら、落ち着いたということがあった。	感覚	かなりダイナミックな刺激を入れようとし、トランポリンやブランコではかなり激しい動きになる。重力を感じようとしてるように感じる。過敏なところは特にはない。
運動 機能	縄跳びは連続十回跳べることがある。水泳では、水中の輪くぐりが幼児期よりできており、息継ぎがうまくいかないものの10メートルは軽く泳ぐ。砲丸投げ(砂入り、1キロ)を楽しむ。自転車には補助輪なしで乗れる。	道具 の 操作	ハサミを使って、少々雑ではあるが、いろんな形を切り取ることができる。のり付けは、量が多めになる。くぎ打ちをやらせると、かなり痛い目にあっても必死に打ち込む。
読み 書き 計算	平仮名の読みは可能。文章になると、読めている時は文を「覚えている」時で、初めての文は1字ずつの拾い読みになる。書く時は字体が整いにくく走り書きのようになる。1桁の計算可。	移動	そばで声をかけていると、交通ルールを理解し、周囲に気をつけるようなこともできているのだが、1人で歩かせるとよそ見が多く、後方からの支援は必要。知っている人がそばにいと、受け身になり易く、本当に1人にさせたら、自分で気をつけることができるのではないかと思う。
理解の 仕方	日常的には言葉で通じていることも多いが、3つ以上の情報になると、特に最初のことが抜けやすい。(後半の2つには反応)視覚的に手順を示すとできることは多い。	表現の 仕方	パターンのには3語文くらいはよく出ており、やりたいことなど表現してことはある。一方で、何か不安な時、嫌なことを思い出した時に、同じことを繰り返して言っていることもある。(笑顔を示し、「大丈夫よ」というと安心することは多くなった。)コミュニケーション用のボードは使用。
交友 関係	友達の中にいることはむしろ好んでいる。話しかけてくれる子がいると、うれしそうな表情。特定の同級の女の子と兄のクラスの子には、よく話しかけている。(会話にはならない。)	ルール 理解	勝ち負けは意識しているが、ジャンケンでは負けてもうれしそう。交代、順番、1番・2番・・・という理解はできている。上下左右については、混乱しやすいところはある。
興味 関心	電車が好きだが、乗り物全般に関心を持っている。父親との外出は、電車を見に行くと決めているだけで、第三者が誘えば、目的を持って出かけることが好きなのだと思う。手品をしてみせると、何度でも繰り返してやってくれと要求する。	好きな タイプ・嫌 いなタイプ	話しかけられることは好きなのだが、口うるさい男の子を嫌う。しかし、他の子たちがふざけ合っている様子は喜んでみている。泣いている子がいると、近づいて「だいじょうぶ」と言っているが、おそらく早く泣き止んでほしいだけで声をかけているように事業所としては感じている。
その他、 特記事項	コミュニケーションをとる時は、このところは筆談を多く取り入れている。メモ用紙と携帯用のホワイトボードを多く使っている。興奮することがあると、ぴょんぴょん跳んで、走り回り出すことは多いが、その際に人を付き押すようなことはしなくなった。		

発達の評価

平成26年4月時点の状況

使用検査: KIDS 乳幼児発達スケール(TYPE T) 1

記入日: 平成26年4月〇日

記入日	H26年 4月 日		生年月日	H17年 8月 日			生活年齢	8歳8ヶ月	
領域	運動	操作	理解言語	表出言語	概念	対子ども 社会性	対成人 社会性	しつけ	食事
得点	35	31	27	23	7	8	27	21	20
発達年齢	5歳5ヶ月	5歳0ヶ月	3歳10ヶ月	3歳0ヶ月	2歳2ヶ月	1歳11ヶ月	3歳5ヶ月	4歳8ヶ月	2歳5ヶ月
得点合計	199		総合発達年齢	3歳6ヶ月			総合発達指数	40	

「KIDS」について
スクリーニングタイプで、「母親記入式」であるが、れいんぼうのスタッフが記入している。事業所での姿を見ながら各項目を評価したが、チェックできなかったことについては、母親及び、学校との連携の時に、担任の先生に尋ねている。

その他:補足

学校においては、特別支援学級を中心に過ごしており、担任1名と市教育委員会の対応で、支援員が1人おり、1年生・本児・5年生2人の4人の児童が在籍。5年生の1人は、この4月に通常の学級から転級してきた子で、Kくんによくちょっかいを出してくるので、Kくんは怒ることが増えているとのこと。昨年までは、授業の体育、図工のすべてと「学級活動」の一部、給食や清掃時間、朝・帰りの集いは毎日と、通常学級との交流の機会も多かったが、4月に入ってから、その5年生の対応に大変なのか、授業での交流の機会は当分なさそうで、帰りの会の時に顔を出すくらいとのこと。4月から担任が変わり、保護者は様子を見守っている様子。

学校の長期休暇中は、事業所が開所している平日には、ほぼ毎日利用する。お弁当持参で、朝から夕方まで過ごすことが多い。母親としては、仕事上、子どもらが休みの時に忙しくなるところもあり、Kくんには申し訳ない気持ちを持ちつつ最大限、事業所の協力と対応を求めている。

記入のポイント

ツールを使ってニーズを整理する。本人を知るための地図

現在状況の整理(アセスメント情報を整理)

ぼく(わたし)の不安や
苦痛、悲しみ・障害・病
気・困りごと

本人のニーズに関連

家族の意向・願い・困り
ごと

家族のニーズに関連

ぼく(わたし)の
ストレングス・強
み・得意なこと・可
能性

事例を読んで、
事前にポイント
を整理してくだ
さい。

生育歴・子どもを取り巻く環境のア
セスメント_ ぼく(わたし)は今まで
こんな育ちをしてきました。

家族・本人を取り巻く環境 ぼく
(わたし)は今このような生活をし
ています。

将来の暮らしに向けた支援

ぼく(わたし)は、こんな風に暮らした
いです。願い、希望は です。今は
をやりたいです。

こどもの生活への希望・ニーズ・各目標
に関連(家族の希望の場合も有り)

ぼく(わたし)の将来の
夢、希望は です。

長期的な暮らしの目標
(家族の目標の場合もあ
り)

事前課題 1

ツールを使ってニーズを整理する。本人を知るための地図

現在状況の整理(アセスメント情報を整理)

記入者名:

ぼく(わたし)の不安や
苦痛、悲しみ・障害・病
気・困りごと

家族の意向・願い・困り
ごと

将来の暮らしに向けた支援

ぼく(わたし)は、こんな風に暮らした
いです。願い、希望は です。今は
をやりたいです。

ぼく(わたし)のストレングス

ぼく(わたし)は、今までこんな育ち
をしてきました。

ぼく(わたし)は今このような生活
をしています。

ぼく(わたし)の将来の夢、希
望は です。

ニーズの整理表

記入者名 :

利用者名

さん

	主訴 把握できる発達課題 (ニーズ)・意向等の情報	現状 初期状態の評価(子ども・環 境の状況)	みたて 支援者の気になること・推測で きること(事例の強み・可能性)	支援 解決すべき課題
発達支援				
家族支援				
地域連携				

事例の概要(100文字程度)

事前課題 3（他メンバーへは配布せず、手持ちの資料になります）

自己紹介文

演習時にグループ内で自己紹介をします。1分以内に自己紹介できるようにアピールの要点をまとめ、あなたらしさを伝えてください。

項 目	内 容
名前（由来・漢字の特徴）	
出身地	
趣味	
福祉業務の経験等	
福祉以外の業務経験等	
仕事に就いた動機など	
児童発達支援管理責任者としての心構え	
その他	

今後あなたの事業所が（個人的な思いも可）重視しようとしているのはどんなことでしょうか。次の項目を参考にしながら、優先順位の高い順に3項目以上具体的に記入してください。

（参考項目）

- ・ 子どもの発達の評価の方法について
- ・ 事業所が大切にしている発達支援の技法
- ・ 家族支援の内容
- ・ 保育所・幼稚園・学校在籍のケースにおける機関連携
- ・ 事業所内のスタッフの育成
- ・ 事業所の設備について
- ・ 地域の療育・子育て支援
- ・ システム作りや、地域の子どもの虐待ネットワーク

1	
2	
3	
4	
5	

個別支援計画

利用者名

作成年月日: 年 月 日

到達目標	長期 (内容、期間等)	
	短期 (内容、期間等)	

具体的な到達目標及び支援計画等

項 目	具体的な 到達目標	支援内容 (内容・留意点等)	支援期間 (頻度・時間・期間等)	サービス提供機関 (提供者・担当者等)	優先 順位

総合的な支援方針